

【8月22日（月）朝礼 教頭講話】

今日は、陸上の全国大会が長野県で行われています。みなさんもお存じのように、本校から3年生の大城珠莉さんが参加しています。今日は200mの予選・準決勝、明日は200m決勝、100m予選、残れば明後日100mの準決勝、決勝に参加予定です。持てる力を精一杯発揮できるよう、弥富の地から応援しましょう。校長先生はその応援に出かけていますので、代わりにお話をさせていただきます。

日本が過去最多の41個のメダルを獲得したリオオリンピックも、いよいよ今日で閉幕します。この夏休み、オリンピックの報道を通して、感動したり、心が震えたりする経験をした人も多かったと思います。

それぞれの選手にはそれぞれの物語がありますが、先生はオリンピックで様々なリーダーの姿から感じたことをお話ししたいと思います。

最初は、男子体操の内村航平選手です。体操の「団体優勝」にこだわり、最後の最後に内村選手自身が、見事な鉄棒の演技を決め、アテネではなし得なかった悲願の団体優勝を果たしました。彼は、自分自身が先頭に立ってチームを引っ張っていく、とても精神力の強いリーダーでした。

二人目は、女子卓球の福原愛選手です。準決勝、3位決定戦と結果を出せず、リーダーとして役割が果たせなかったことで「本当に苦しいオリンピックでした」と涙を流していました。最後には「みんなに感謝をしています」という言葉を残した涙のリーダーでした。

三人目は、女子レスリングの吉田沙保里選手です。4連覇のかかった決勝戦では自分のレスリングができず、銀メダルに終わったことに「日本選手団の主将として、金メダルを取らなければならなかったのに。ごめんなさい」と謝罪の言葉を、涙ながらに口にしました。使命感の強いリーダーでした。

結果はそれぞれ、金・銀・銅と違いますが、リーダーとしてはどうでしょう？どの選手も、大きなプレッシャーに立ち向かい、今持てる力を最大限に出し、力一杯戦いました。大変立派だったと思います。

そしてそのリーダーの姿はとても大きなものを残しました。

「東京オリンピックでは、航平さんのようになりたいです」と力強く語った白井健三選手、

福原選手に憧れ、試合前には「先輩を手ぶらで帰らせるわけには行かない」と口にした15歳の伊藤美誠（みま）選手、

吉田選手と共に毎日練習をして、戦う姿を間近で見て、リオではたくさんの金メダルを取った若い選手達。

リーダーのその姿は、後輩たちを育て、確実に次の時代を引き継ぐ若い世代へと受け継がれ、4年後の東京オリンピックにつながっていくでしょう。

さて、弥富中学校でも、それぞれのブロックのリーダーの人達が、2学期に向けて暑い中ラストスパートをかけています。各ブロックのパフォーマンス・旗・合唱がよりよいものになるよう、一生懸命に取り組んでいます。これから始まるブロック練習や本番でのそのリーダーの姿は、来年・再来年のリーダーとなる2年生・1年生の後輩達に、確実に受け継がれていくことと思います。みんなで一つになり、パワーあふれるよりよい学校祭にしましょう。

夏休みも残すところ、10日を切りました。やり残した宿題がある人は、きちんと済ませてください。そして9月1日の始業式には、全員が元気に登校できることを楽しみに待っています。

自分の命を大切にし、残りの夏休みを有意義に過ごしてください。
以上でお話を終わります。